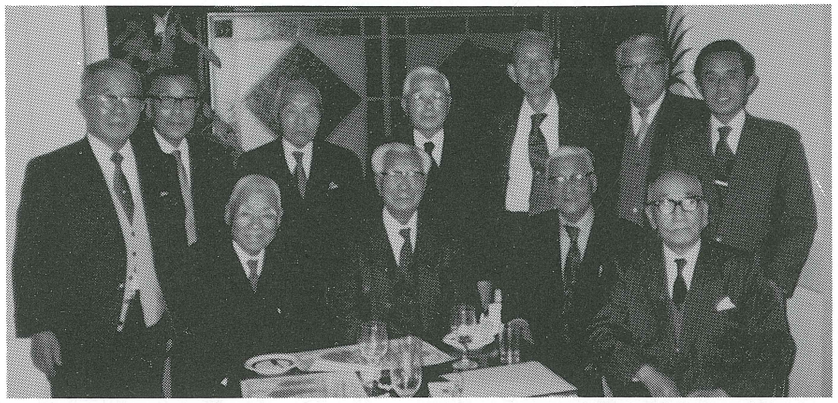
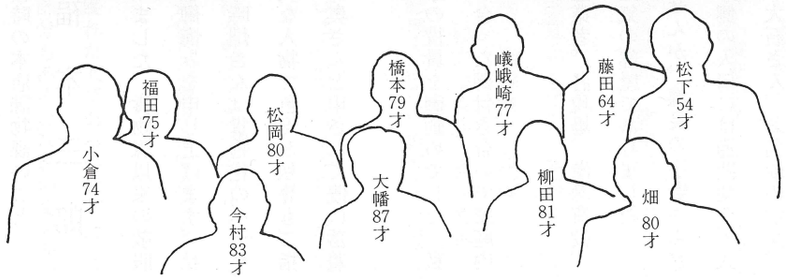


於 凧月堂（昭和54年1月10日）



んは日商関係の受渡の御掛りで毎日朝から夕まで忙しい課でありました。私等現場出張所詰めの者は朝夕立寄って指令を受け連絡をとりました。何れにしても我々独身者は本店の食堂で朝夕を済ましましたので済美寮―本店―現場出張所の往復が毎日のコースでした。

終戦後、割合早く連絡がとれて神戸の菊水と言う家で十河さん中心で会合しそれ以来畑さんは辰巳会の御世話をして頂くようになりました。貨物課の会と言うのが出来まして五月会と名づけました。十河さんは死去され畑さん、松岡さんが主導者になられ私のお誘めで倉敷、鷲羽山へも参りました。河合一雄さんが東京から参加されました。

最後に忘れられない記憶は昭和二年の解散を前に当時としては秘かに貨物課の解散の小宴を畑さん等の御世話で行われました。

場所は脇之浜の倉庫の一室で、殺風景な部屋で何か世をはゞかるような寂しい会合でした。皆さん沈んで居りましたが、畑さんの主唱で、十河さんが琵琶歌を吟唱する事になりました。

〝明智左馬之助湖水渡り〟でした。敗戦の将が、湖水を渡ると言う主題で何とも言えぬ気持ちで皆さんが聞いて拍手をした事を忘れ得ません。その時の人達も殆どなくなられました。

今その会の故老畑薫さんの御逝去は誠に惜しまれてなりません。

合掌

野尻学荘

辰巳会会長　鈴木治雄

人にはそれぞれ多感な青春時代に人との出会いがあり、「その人」によって自分の生き方の基礎を築いてくれたと思える人がいるものだ。私にとって「その人」とは砂糖商の故小林弥太郎氏である。

私は小林氏が私財を投じて作られた「野尻学荘」の夏季長期キャンプに中学二年生から大学三年までの九年間参加した。「野尻学荘」は現在でも開かれている。昭和七年に長野県の野尻湖畔の一角に作られた。東京ＹＭＣＡのリーダーが中心となり中学生四～六人が一つの小舎に三十五日間起居を共にし、当時の学校教育では考えなかった民主主義を中心とした教育を受けた。このことが、現在の私の生活の基礎となっているように思える。

その後昭和十六年三月、戦前の大学生としては最後の全教程を終えて卒業し、当時の騒然とした社会に入った一人だが、私自身大東亜戦争の始まる寸前に日商上海支店に職を持った関係上、友達との交流は戦争が終わるまでほとんど出来なかった。戦後は日輪ゴム工業に転じていた。爆撃で百パーセント破壊された工場の再建も進み、どうやら自分の生活にも余裕が出来た。学生時代にやっていた学生競技スキーの手伝いが出来るようになり、約十年間程は競技委員としてかつてのライバルだった方々と関西あるいは長野、新潟等のスキー場へ参加して来た。

特に昭和二十六年神鍋山スキー場で行われた国体の時に御来臨いただいた高松宮殿下のお供をさせていただいて以来、今日までスキーではなく、雪輪会というゴルフの会で和田晋太郎氏（兵庫県スキー連盟会長）と共に親しくしていただいている。

二年後輩の和田氏は北海道小樽の出身で、昭和十三年以来戦時中の五、六年を除きずっと交遊を続けているが、彼はきちょうめんさと共に物事に対する熱意は素晴らしく、現在の会長の仕事を完全にやり遂げておられるのには心から敬服している。

また昭和二十七年ごろから始めたゴルフにおいても良き友がいる。私がハンディキャップ二〇ぐらいの時にすでにハンディキャップ二であった松本勉氏である。

彼が明治鉱業大阪支店におられた時は毎日曜日、広野で二ラウンドをして大いに鍛えられた。ゴルフの面白さを教えてくれた彼も二年後輩、私の友には不思議にも二つ年下が多い。（太陽鉱工社長）

（昭和六十一年三月十日　日本経済新聞掲載）